

令和
2年度

決算 のお知らせ

7月14日(水)に開催されました第176回組合会において、
令和2年度の決算が可決承認されましたのでその概要をお知らせします。

令和2年度 決算のポイント

保険給付費の減少により黒字決算

決算概要

皆さんと事業主から納めていただいた保険料収入は、標準報酬月額および総標準賞与額の減少により前年度より3,114万3千円減収の28億488万9千円となりました。

支出では、皆さんの医療費などに充てられる保険給付費は前年度より1億3,107万2千円減少し11億8,905万1千円となりました。

高齢者医療を支えるために支出する納付金は、前年度より前期高齢者納付金が1億3,167万7千円増加、後期高齢者支援金は224万5千円減少しました。その他の項目を含め12億2,313万7千円を拠出しました。

皆さんの健康づくりをバックアップする保健事業費には2億3,020万6千円を支出し、各種検診や保健指導、Smart Life Pointなどの事業を積極的に実施しました。

令和2年度は、保険料収入の減少と納付金の増加を保険給付費の減少で補うかたちになりました。収支差引額で11億7,409万9千円の黒字、財政の健全性を示す経常収支差引額で見ると、9,802万8千円の黒字決算となりました。

健康保険組合を取り巻く状況

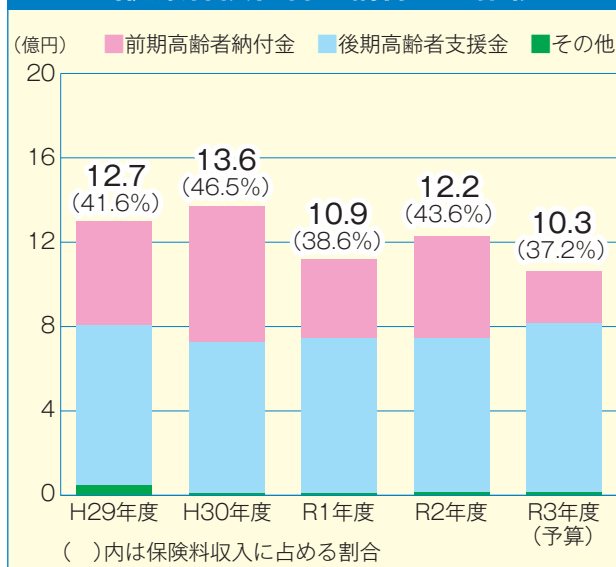
令和2年度は保険給付費の減少によって黒字決算となりましたが、これはコロナ禍によって受診を控えたことによる一過性のものと考えられます。依然として終息が見通せない新型コロナウイルス感染症により、今後医療費がどのように推移してくか不透明な状況です。令和3年度予算では後期高齢者納付金が再び増加すると試算されており、保険給付費と納付金が増加に転じれば、赤字に陥ることも考えられます。

健保連発表の2021年度健保組合予算早期集計結果の概要によりますと、全健保組合のうち77.9%が赤字予算となることがわかりました。団塊の世代が後期高齢者となり医療費が急増すると予測される「2022年危機」を目前に、医療保険制度の抜本的改革が何よりも求められるところです。

健康保険組合としては、事業の効率化をいっそう図ると共に、皆さんの健康増進施策に力を注いでまいります。

皆さんにおかれましては、各種検診などの保健事業を積極的に活用し、健康の維持・増進に努めていただき、適正受診をこころがけ、医療費の削減にご協力いただきますようお願いいたします。

当健康保険組合の納付金の推移

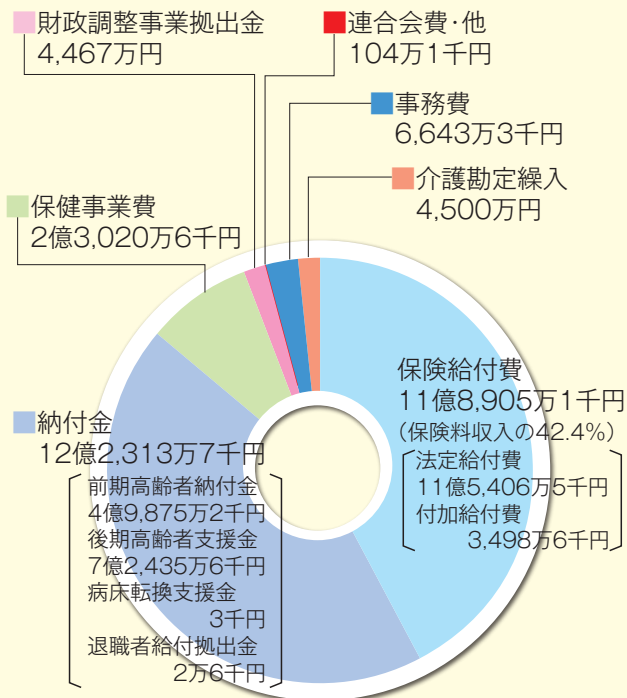
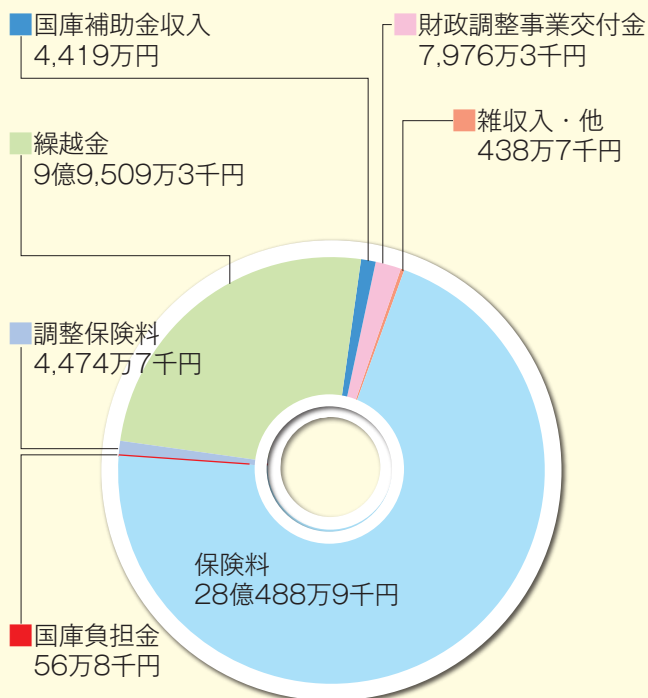




収入合計 39億7,363万7千円



支出合計 27億9,953万8千円



令和2年度
決算額

収入合計

39億7,363万7千円

支出合計

27億9,953万8千円

収入支出差引額

11億7,409万9千円

経常収支差引額

9,802万8千円

健康
保険

決算基礎数値

被保険者数	3,976人 (男性 2,932人 女性 1,044人)
平均年齢	44.64歳 (男性 45.49歳 女性 42.28歳)
被扶養者数	5,136人
前期高齢者加入率	0.564851%
保険料率 (調整保険料率含む)	83.00/1000 (事業主 51.00/1000 被保険者 32.00/1000)

介護
保険

決算基礎数値

介護保険第2号 被保険者たる被保険者数	2,688人
介護保険料率	12.00/1000 (事業主6.00/1000 被保険者6.00/1000)

決算の概要

(単位:千円)

収入	科目	決算額
	介護保険料	317,759
	繰越金	31,524
	繰入金	52,000
	国庫補助金受入	965
支出	一般勘定受入	45,000
	合計	447,248
	科目	決算額
	介護納付金	445,963
	合計	445,963